舵輪 VOL.7

8月1日総帆展帆

さる8月1日（日）に行われた総帆展帆には86名のボランティアの方が参加され、海王丸の帆をひろげました。横浜の日本丸からも2名のボランティアの方が参加され、畳帆後の反省会で紹介されました。

今年は冷夏のせいか、8月にはいったにもかかわらずあまり暑くならず、総帆展帆の作業を行うには、適した一日でした。

また、昼休みには、海王丸係留水域で行われたファミリーボートレースに、多数のボランティアの方々が参加され、夏の海王丸を楽しまれました。

「海洋講座」

8月29日（日）のご案内のボランティアと一般の方々を対象に「海洋講座」を催します。

演題　「スピンアヤーン」
（船と人のかかわり合いと帆船のこぼれ話について）
講師　荒川博さん
（元航海訓練所所長
元海王丸船長）

皆さん、ふるって参加ください。

チョッサー からのお知らせ

来る8月29日（日）の総帆展帆日に、海洋講座の講師として、荒川船長が来県される予定ですが、今回、ご希望の方に、船長の著書を当日サインをいただいた上で、斡旋したいと思います。

書名　「風・船のじてん」　蒼洋社

風と船に関するエピソードをまとめた読物で、最初の語はなんと「あいの風」だそうです。

なお、荒川船長には別の著書「帆船への招待」があり、すでにお持ちの方も多いと思いますが、サインを希望される方は、当日お持ち下さい。荒川船長のご了解をいただいております。

イルミネーション

イルミネーションのご案内を実施いたします。

日時
8月21日（土）
8月22日（日）
日没時～21：00まで

富山係留中、最後になるかもしれない（？）「海王丸」のイルミネーションです。

皆さん、夏の終わりのたそがれ時を海王丸パークで過ごされてはいかがでしょうか。

ボランティア有志

去る6月6日の総帆展帆の日に注文をとった帽子をお渡ししております。

まだ、注文された方で、受け取っていない方は、8月29日の総帆展帆のときに、とりに来て下さい。

受付時間
1200～1230
1630～1715

場所
日本海交流センター
第2研修室
（代表　森田）

船の本

ボランティア　玉井文次

船に興味を持つようになってから、船の本を読むようになり、購入したものを紹介します。

一・帆船

白い帆は青春のつばさ　高永洋子著　偕成社
帆船へのお招待　荒川博著　海文堂
セイル・ホー　成山堂
世界の帆船物語　中村庸夫著　新潮社
世界の帆船　中村庸夫著　平凡社

二・各種船の航海記
負けじ魂これぞ船乗り　土井全二郎著　日本海事広報協会
海の男達はいま　海上の友編集部　日本海事広報協会
船長　矢嶋三策著　日本海事広報協会
北洋船団女ドクター　田村京子著　航海記集英社
捕鯨船団女ドクター　田村京子著　航海記集英社

三・豪華客船ができるまで（ふじ丸）　海事プレス社
飛鳥クルーズ編集部　海事プレス社
全図解豪華客船　大西宣彦著　光文社
クイーンエリザベス2の旅　中村庸夫著　新潮社
船旅の楽しさを満喫する　中村庸夫著　新潮社

四・ヨットその他
地球は小さなタマッコロ　波切大王航海記
白鳥号航海記　西原景太郎著　マリン企画
オケラ5世優勝す　多田雄幸著　文芸春秋社
船の一生　吉田文二著　講談社
船旅の絵本、船旅絵日記、船図鑑、舟キチの記　柳原良平著　徳間書店

読んでみたいと思われる方があれば、連絡下されば、貸し出します。（Tel 0767-37-9676）

永遠の美貌に乾杯！！

初めてボランティア「海王丸」と出会った日、三輪圭子さんは昭和56年、12月前でした。

それは野次馬根性で富山新港まで、子供を連れて見にきたものでした。

その時は、魚津からとても遠い所に感じられ、それが現在ではちょっとそこまで、思い立ったらすぐに飛んで行ける「海王丸」になってしまいました。

ボランティアに応募したきっかけも、人よりすこし近づけたらいうささいな気持ちだったのに、7月4日の畳帆では、ロイヤル。ロープもひっぱってあります。甲板も大きな顔をして走っています。

見上げていただけのマスト、細いロープ、シュラウド、今、私の足が頭から離れません。

ボーとしている「ミス・海王丸」です。

注：「ミス・海王丸」のミス、皆さんは多分「MISTAKE」とお思いでしょうが、「MYSTERY」（神秘的な）だという事。どうぞ、お間違えのないように。

シリーズ「海の英語」

今回は夏休み中ということでもありますし、少し変わったテーマで書いてみます。題して、「何故船は彼女（she）と呼ばれるのか？」。皆様もよくご存じのように、英語の社会では船は必ずと言ってよいほど女性形で表され、Ease her! 減速せよ！ Keep her away! 避航せよ！というふうに使われます。ところが、これには特に理由もなく、単なる慣習のようです。

明確な理由がなければないほど、もっともらしい理由をつけたがるのは人間の面白いところ。当然これにもいろいろな理由が取りざたされています。

例えば、米国の有名なニミッツ提督は、ある集会の席上次のように語ったそうです。「紅、白粉にたくさんカネをかけて、いつも飾りたててはならぬ点で、船と婦人とは共通しているからだ。」

また、あるまじめ？な本では、その理由を以下の八通り、列挙しています。（ずいぶん暇な本ですね。）

①いつもその周囲には、てんやわんやの大騒ぎが演じられる。

②その周囲に、一団の男衆が付きまとっているのが常である。

③waist（中部甲板、腰）とstay（支索、頼りにする男）とを持っている。

④見栄えをよくするために多量のペイント（紅、白粉）の投入が必要である。

⑤諸君を破局に導くのは、それの入手費ではなくして、維持費である。

⑥満身飾りたてられる。

⑦正しく扱うには、当を得た男子が必要である。

⑧上半身はあらわに出し、下半身は隠している。そして、入港（帰宅）すると、いつも浮標（寝床。boysとの洒落もある？）に突進する。

さて、皆さんならどの理由が適当と思いますか？女性のボランティアの中には、これらの表現にムッとされている方が少なからずいらっしゃることと思いますが、これは飽くまでも女性が現在のように船の社会に進出される以前の男性だけの社会での、しかもなかば冗談話ということでお許しください。

でもこれで、ジョッキ一杯分は余計に飲めるのではないでしょうか？お身体、大切に！

彼の彼方で……

練習船での航海中の出来事を紹介するこのコーナーですが、今回から船上で行われる様々なリクレーションについてお話しします。今回は、赤道祭を取り上げてみました。

もともと赤道祭とは、帆船時代に、赤道無風帯という帆船の難所を乗り切るための宗教的行事であったそうです。それが現代では、客船や練習船のリクレーションとして行われる程度になりました。この赤道祭の主役は、なんといってもネプチューン大王です。

洗礼の方法は、呼び出された者に対して、意地悪な質問や命令がなされ、挙げ句の果てにバケツに汲んだ海水を頭からかけられるのです。洗礼が終わると一同ネプチューンの前に呼び出され、そのネプチューンの罪を許されてから船長に赤道通過の許可証となる"金の鍵"を授けます。船長は、そのお礼として、王妃に舷窓の止め金具を外した大きな指輪を献上します。これで無事赤道祭を終えることになります。

遠洋航海では、赤道の他に日付変更線を通過することがありますが、その時も同じような儀式を行います。

さて、赤道や日付変更線の通過が近づくと船橋内は、異様な雰囲気に包まれます。ある航海士は、「赤道には赤いブイが目印として入っているのでよく見張り実習生に見つけたら報告する事」などと大真面目に指示します。ほとんどの実習生は冗談として受け止めてくれるのですが、張り切って見張りを始める純真（？）な実習生もいて、後から恨まれる事もありました。

赤道祭には、その妃や王女また家来達が登場することもあります。

さて、練習船での赤道祭は如何にして行われているのでしょうか？

赤道を通過した日の午後に、当直者以外の全員が甲板上に整列します。そこへ家臣を従えたネプチューン一行が煙の中を装いのネプチューンと船長の間でしばらくやりとりがあり、船長は全員に重々しく登場します。そこで、ネプチューンは王座に着き、初めて赤道を通過する者を呼び出して洗礼を授けるのです。

赤道通過の直前になると当直航海士が秒読みを開始します。通過の瞬間にその航海に同乗しているドクター（制服着用）が、汽笛を吹鳴するのです。そこで一斉に拍手が沸き起こり、赤道通過を祝しますが、往きの航海ではいよいよ日本から離れたことを実感し、多少おセンチになり、帰りの航海では、日本がより近くなった事を受け止め、その航海の総仕上げに励むのです。

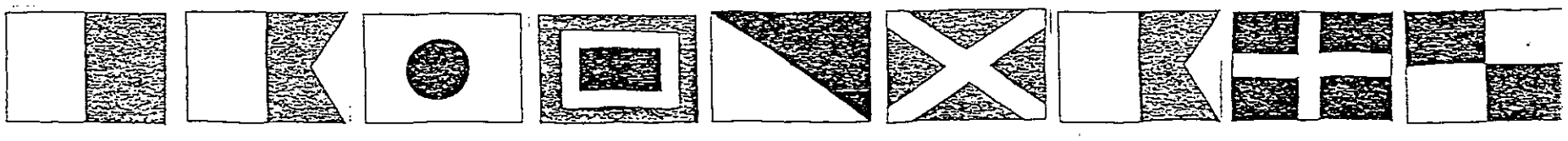
ところで、何を基にして赤道通過を知るかですって？是非知りたい方は私の所まで……

（川路）

あとがき

8月1日に行われた総帆展帆では、86名のボランティアの方に参加していただきました。家族サービスやレジャー等で、参加していただけるボランティアの方も少なくなる時期、果して、総帆をひろげられるだけのボランティアの方に参加していただけるかどうか、心配でしたが、それも杞憂となり、ほっとしております。（ちなみに、昨年の同時期の参加人数は64名。）

今年は、まれに見る冷夏、そして自然災害の当り年のようです。地球規模での環境悪化、あるいはエルニーニョ現象等いろいろ原因は言われているようですが、人間の活動が自然環境に影響を与えているのも事実のようです。われわれ一人一人が地球に優しい生活を求められる時がきているのかも知れません。

（望遠鏡）

（イラスト 野村希世さん）